

# 令和元年度 単位PTA発行の広報紙に関する実態調査（概要）

令和2年1月16日

回答をいただいた512校の内、466校（91%）が、広報紙を用いた広報活動に取り組んでいることが分かりました。また、広報紙を作っていない学校にあっても、学校便りや地域の広報紙を活用するなど、広報活動に努めている様子がうかがえました。また、学校ホームページ内に「PTA」のコーナーを設置するなど、新たな広報活動に取り組んで見える学校もありました。

少子化等による委員の負担や予算の不足など課題は多くありますが、ぜひ、今回の調査結果を参考にさせていただき、PTA活動のさらなる充実に活用していただければ幸いです。

## 広報紙を発行している場合

### 1 会員数別学校数

◆県内539校の内、会員数が1～100名が139校（26%）、101～200名が116校（21.5%）、201～300名が88校（16.3%）、301～400名が68校（12.6%）、401～500名が60校（11%）、501～600名が32校（6%）、601～700名が21校（3.9%）、700名以上が15校（2.8%）となっています。

### 2 年間の発行数及び発行月

◆最も多いのは、年間3回発行（7月・12月・3月）、次いで年間2回発行（7月・3月）

### 3 形式

◆最も多いのは、A4判8頁。次いでA4判4頁。  
発行月によってページ数を変えたりホームページを活用するなど媒体を変えている学校がある。

### 4 印刷の様式

◆業者委託している学校は全体の91%（417校）。校内でのみ印刷している学校は全体の7.4%（34校）、そのうち業者委託との併用を活用している学校が7校ある。

### 6 購読者

◆保護者、教職員、地域へ配布している学校が最も多い。地域への配布については、全戸配布の他、回覧や公民館に置くなどしてより多くの方に読んでいただけるよう工夫している。

### 7 教職員の関わり

◆全体的には、教頭・教務主任が関り、写真や文章のチェック、写真提供等を行っているが、美濃地区、可茂地区、東濃地区、飛騨地区は、教職員も広報委員として同席し、広報紙作成や業者との打ち合わせ等、深くかかわっている学校が多い。

### 8 個人情報保護への留意

◆年度初めに、HPへの使用を含め、写真掲載の可否について書類で提出してもらっている学校が多い。また、掲載確認だけでなく、名前と顔が一致しないよう名前の掲載や名札の写り込みがないよう留意しているという学校が多い。さらには、広報紙の廃棄方法についてなど、個人情報保護の留意点を伝えている学校もある。

### 9 ホームページによる広報活動

◆PTA活動を記事にして、地域へ発信している学校や運動会等、写真中心の記事は広報紙とせず、写真にコメントをつけてHPにアップしている学校がある。また、作品募集の要綱や地域の行事などのお知らせを学校から発信したり、学校のホームページにPTA活動のコーナーをつくり、年間計画や活動の様子をアップしている。



### 10 広報紙コンクールへの参加

◆参加校43.4%、不参加校56.6%。

不参加の理由は、負担軽減のためが19.1%、内容や目的に合わないからが15.8%、その他、未回答を含め、参加について話題になっていない等が61.2%。また、コンクールの存在を認知していなかった学校が4.1%あることが分かった。

### 11 今後も継続して発行できるか

◆今後も継続できる学校が88.0%、難しい学校が11.1%、できない学校が0.9%。

難しいと答えた学校の多くは、会員数の減少による委員の負担増加、それに伴うPTA組織の見直しや予算の減少等をあげている学校が多い。

## 広報紙を発行していない場合

### 1 発行していない理由

◆発行していない学校46校（小学校32校・中学校14校）の内最も多いのが、負担軽減のためが40.0%、次いで会員数の減少で34.5%、予算の減少が11.1%、その他が14.4%となっている。

### 2 広報紙に代わる活動

◆学校便りや地域の広報紙等にPTA活動を掲載し、啓発に努めている学校が多い。

## 広報活動に関する工夫

### 1 役割分担や会議等の負担軽減に関する工夫

#### ①役割分担に関する工夫

・発行月によってチームを編成したり、撮影、記事、レイアウトを分担するなどして、個人に多くの負担がかからないようにしている。

#### ②取材・編集・写真撮影等に関する工夫

・学校行事については、積極的にCCネット（ケーブルテレビ）に声をかけて撮影に来てもらっている。  
・テーマを保護者の方に考えていただき、読みたいと思ってもらえるように作っている。PTA活動の様子をより多く掲載する。  
・学校行事の紹介や入学・卒業企画は学校側の通信に任せ、PTA新聞はPTAの活動に限って情報発信するようにしている。これにより、ページ数が大幅に減り、原稿執筆や編集などの手間が軽減された。  
・写真撮影は、教員が撮ったものを活用し、カメラマンとしての仕事をなしにした。

#### ③会議の持ち方等に関する工夫

・行事取材以外は、在宅作業ですむように仕事分担している。校正などすべてLINEで行っている。  
・業者との打ち合わせは、すべてメールにてやり取りし、フルタイムで働いている方にも参加しやすくした。

#### ④その他

・業者印刷をやめ、学校で印刷することで、切までに余裕ができた。そのためよりタイムリーな記事を紹介できた。  
・地域の広報誌に小学校のページを入れていただいている。

### 2 紙面づくりに関する工夫

#### ①掲載内容に関する工夫

・令和改元に合わせた紙面づくり、広報誌名の由来や小学校の生い立ちなど歴史的に紹介することで「なつかしさ」を喚起。安全サポーターさんの特集で「親しみやすさ」を喚起。取材アンケートの充実で「読み物的」感を喚起。  
・生徒が載っている写真を用いたり、生徒の文章を載せたりすることで、生徒にとってより身近に感じることできる広報誌になるよう工夫している。  
・3月発行の卒業特集号は別冊を作成し、卒業生の夢や中学校の思い出などを詳細に紹介している。特に卒業生の保護者からはこの特集号の継続を望む声強い。  
・小規模校でもあり、地域の方々からも様々な面で声をかけていただいている生徒たちだからこそ、できるだけ具体的な様子や個々の紹介となるような紙面づくりやトピックの構成を担当委員と一緒に考えて作成している。  
・保護者から我が子へのメッセージの掲載。  
・掲載内容について、事前に「希望調査」をとり、読者の関心に即した記事にしていく。

#### ②経費削減に関する工夫

・発行部数を減らすより、カラーから白黒にし、単価を下げ、その分読みやすさやインパクトのある写真を使うなど工夫した。  
・コミセンの広報誌に、PTA広報ページを入れることにより、費用の削減、作業の効率化、配布数の拡大、校正作業の委託などの効果が見られた。  
・経費削減のため、印刷を業者請負から自校印刷（郡教育研究所のカラー印刷機）に変更した。

#### ③より多くの方に読んでいただくための工夫

・地域との交流写真を載せたり、公民館に広報紙を置かせてもらっている。  
・学校行事当日だけでなく、事前の取組から本番に至るまでの流れを取材して記事にしている。学校・地域・PTAの関わりが伝わる内容となるよう留意している。  
・広報誌に載る生徒が偏らないように配慮をしている。